

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第 6 号 平成 28 年 4 月

編集・発行 武蔵野市農業委員会

〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28

Tel 0422-60-1833 (直通)

Fax 0422-51-9408 (直通)

新年度にあたり、日頃より武蔵野市農業委員会へのご協力に対し、感謝申し上げます。

武蔵野市では、平成 28 年度から 37 年度を期間とする農業振興基本計画を策定し、武蔵野市の農業・農地を守るための施策が展開されます。農業委員会においても、身近な農地から安全・安心な農産物が提供できる環境を維持するため、努力しているところです。

さて、昨秋の東京都農業祭で、都内から出品された約 2,000 点の農産物の中から武蔵野市の高橋宏明さんが栽培した「ナス」が農林水産大臣賞に選ばれました。生産された農家の栽培技術に敬意を表するとともに、本市の農業者がこのような栄誉ある賞をいただけたことを大変うれしく思います。

本市の農産物品評会においても、この受賞したナスに勝るとも劣らない良質の農産物が多数出品されています。市内の農業者の品質にこだわる栽培には定評があります。

農業委員会では、市内農産物を PR するイベントを各種開催しておりますので、ぜひご参加ください。



武蔵野市農業委員会会長 井口良美

武蔵野市農業振興基本計画（平成 28 年度～平成 37 年度）策定

武蔵野市農業振興基本計画は、平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間を見据えた新たな武蔵野市農業の振興計画として策定しています。策定に当たり、市民、農業者、農業関係団体職員、学識経験者からなる策定委員会を設置し、市民及び農家からのアンケートを実施、寄せられた意見等を活かし、計画に反映しています。

都市の農業は、新鮮で安全な農産物の供給はもとより、災害時の避難場所や子どもの農業体験の場の提供、農業を通じた自然、歴史、文化の継承など、農業・農地の持つ多面的機能への期待が高まっています。

そのような中、平成 27 年 4 月に都市農業振興基本法が施行されました。農地の減少、農業従事者の高齢化など都市農業を取り巻く環境は、厳しい局面を迎えていますが、同法の施行により、都市の農地は従来の「宅地化すべきもの」から「都市にあるべきもの」として再定義されました。これを背景に、市では、「東京都農業振興プラン」や「武蔵野市第五期長期計画」その他関連諸計画との整合性・連携を図りながら、本市農業の基本目標を示し、長期的視野に立って農業振興施策を進めてまいります。

農業振興基本計画の目指す武蔵野市農業の将来像は、『安全・安心武蔵野農業～市民の豊かな生活を彩る～』であり、将来像の実現のための基本的な方向は、(1) 市民生活を支える都市農地の保全をはかる (2) 市民生活を豊かにし、市民とふれあう農業を築く (3) やりがいのある農業経営を進める の 3 点です。

さらに、重点施策として、①農地の保全、②都市農地の多様な機能の推進、③人と環境に優しい農業の推進、④食と農の教育、⑤農業の伝統・文化の保存と継承、⑥地産地消の推進、⑦経営感覚に優れた農業者の育成、⑧農業後継者と多様な担い手の確保と育成、⑨安定した農業経営の確立、⑩情報発信の充実、を掲げています。

これらを踏まえ基本計画の実現に向け、施策を展開してまいります。

「武蔵野市農業振興基本計画」は、市役所、市政センター、図書館等で配布しているほか、市ホームページでもご覧いただけます。

農地パトロール

武蔵野市農業委員会では、遊休農地や農地の違反転用発生防止のために、毎年 9 月を「農地パトロール月間」とし、市内全農地の利用状況の一斉調査を行い、指導しています。

農地利用状況調査は、市内を 6 つの地区に分け、全農業委員、農業委員会職員、および JA 職員が連携して、生産緑地や納税猶予制度適用農地をはじめ、すべての農地が適切に管理されているか、調査を行っています。調査にあたっては、全農地の写真を撮り、撮影位置を地図に記録し、地番、所有者、利用状況などの記録とともに管理しています。また、市内の全農家に、調査実施報告書を配布し、農地の更なる有効活用を呼びかけています。

そのほか年間を通して農地の見回りを実施しています。



東京都農業祭で農林水産大臣賞受賞

平成 27 年 11 月 2 日に行われた第 44 回東京都農業祭で、約 2000 点の農産物の中から武蔵野市境在住の高橋宏明さんのナスが農林水産大臣賞を受賞しました。

おめでとうございます。

等級	種類	氏名	特別賞
特別賞	ナス	高橋 宏明	農林水産大臣賞
特別賞	ギンナン	大戸 正勝	東京都農業改良普及事業協議会長賞
特別賞	キャベツ	井口 航平	東京都農林水産振興財団理事長賞
優秀賞	ギンナン	高橋 良治	
優秀賞	インゲン	高橋 宏明	
優良賞	ギンナン	高橋 良治	
優良賞	ギンナン	大戸 正勝	
良好賞	里芋	大坂 志つ子	
良好賞	大根	井口 航平	
良好賞	ブロッコリー	井口 育代	
良好賞	カブ	井口 義一	
良好賞	切花ハボタン	名古屋 和宏	



高橋 宏明さん



インタビュー

このたびの受賞により、武蔵野市の農産物の品質の高さ、生産技術の高さをPRでき、うれしく思います。

ナス、キュウリ、トマトなどの果菜類の専門家を目指しています。

都市部の小規模農地での営農には、高度な技術力が必要不可欠だと考えています。

今後とも安全・安心はもとより、新鮮で高品質な野菜の供給を通して、多くの方々に感動を届けられる農業者でありたいと思います。

武蔵野市農産物品評会入賞者

平成 27 年 11 月 8 日に武蔵野市農産物品評会を開催しました。

市内 57 戸の農家から 667 点の農産物が出品され、以下の 20 品目が最優秀賞に選ばれました。

組合名	氏名	品目
吉祥寺	松本 正人	青首大根
関前	中村 勉	ブロッコリー
境西部	高橋 嘉晴	カブ
関前	井口 義一	白菜
関前	坂本 和人	小松菜
境南部	吉野 隆夫	キウイ
関前	櫻井 真二郎	ユズ
関前	名古屋 和宏	切花(アスター)
関前	大坂 新一	聖護院大根、里芋
西窪	榎本 繁雄	ミカン類
関前	榎本 清一	パレイショ
関前	櫻井 敏史	ニンジン、カンショ
境東部	後藤 正昭	ウド
境西部	後藤 直久	キュウリ
境西部	高橋 清次	ナス
吉祥寺	田中 武徳	キャベツ
境南部	竹内 昭博	柿
関前	大戸 正勝	ギンナン

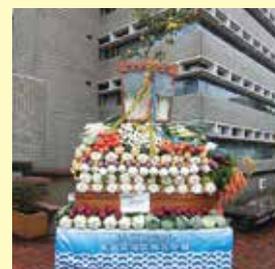
(敬称略)

平成 27 年度農業者表彰受賞者

受賞した賞 (カッコ内は授与団体名)	受賞者名
第 55 回企業的農業経営顕彰 (東京都農業会議)	高橋 忠 (境)
第 35 回農業後継者顕彰 (東京都農業会議)	田中 宏茂 (吉祥寺北町)
第 42 回農業委員会功労者表彰 (東京都農業会議)	坂本 清一 (八幡町)
平成 27 年度北多摩地区農業委員会連合会 優秀農業経営者表彰 (北多摩地区農業委員会連合会)	田中 恒男 (吉祥寺北町)
平成 27 年度新規就農者奨励賞 (公益財団法人東京都農林水産振興財団)	井口 彦光 (関前) 大坂 慶典 (関前) 坂本 涼平 (八幡町) 櫻井 幸子 (関前)
第 27 回産業功労者表彰 農業部門 (武蔵野市)	榎本 正孝 (西久保) 高橋 元久 (境)
第 49 回農業功労者表彰 紫綬功労者 (一般財団法人 内田農業振興会)	土屋 正孝 (境)



品評会審査のようす



野菜の宝船

武蔵野市東京うどん品評会

2月22日(月)うどん品評会が行われました。

東京うどんの栽培は江戸時代後期、豊多摩郡井荻村の松庵（現在の杉並区松庵）と隣接の吉祥寺で始まったとされています。

現在武蔵野市ではうどん生産農家数は減りましたが、東京うどん発祥の地の伝統を守るべく、うどん農家が生産技術の腕を競い合う品評会を行っています。

品評会では、入賞したうどんの展示・販売のほか、うどん春巻きなどうどん料理の試食やうどん饅頭の販売なども行われました。



東京都知事賞受賞の後藤さんのうどん



うどんを使った料理

東京のがんばる農業応援バスツアーを武蔵野市で開催しました

11月20日(金)市報などで募集した40名の都内在住の方々が、市内3カ所の農園を見学しました。今年度は東京都農業経営者クラブおよび東京都消費者月間実行委員会が毎年都内を巡回する農業応援バスツアーとの共催となり、2台のマイクロバスで農業の現場を訪ね、農家の人々との交流を通じて都市農業のPRを図りました。

竹内果樹園 (境南町2丁目 竹内さん)

ぶどう、柿、梨、キウイなどの生産農家。武蔵野市の果樹栽培の歴史から、都市化の中で住宅地で近隣へ配慮した農作業の工夫まで多様なお話を伺いました。旬のキウイの試食もさせていただきました。



井口農園 (八幡町3丁目 井口さん)

市内唯一の小麦栽培農家。年間を通じて小学生の小麦栽培体験学習の受け入れや学校給食へ野菜の納品も行っています。サボイキャベツやロマネスコ(ブロッコリー)など珍しい品種の野菜の説明に参加者は興味深く聞き入っていました。



意見交換会 (JA東京むさし武蔵野支店)

市内の農業者と参加者の意見交換会が行われました。



参加者からは、「自分の住んでいる区内には農地が全くないので、身近なところに農産物の生産現場があつてうらやましい」「行政には農地を多く残す努力をしてほしい」などの感想がありました。

※市内産野菜を使ったお弁当も大好評でした。

ムーバス29 (吉祥寺北町3丁目 田中さん)

吉祥寺発祥のうどん生産農家。群馬県の高冷地から根を運び、室(ムロ=光を遮断し、白くて柔らかいうどんを育てる穴倉)に入れる直前のうどんの根も見せていただきました。

ここでは、かぶの収穫体験もさせていただきました。



うどんの根

イベントカレンダー (28年度上半期)

イベント名	時期	場所
栽培講習会 28年度市民農園使用開始者初級講習会	4月2日(土) 講師: 福田俊氏 (東京農業大学エクステンションセンター講師)	武蔵野市役所 西棟8階 811会議室
農業写真展	6月中旬	市役所1階ロビー
夏野菜品評会 展示と試食会	6月27日(月)	市役所1階ロビーと正面玄関前
ほおずき市・野菜の即売会	6月中旬~7月上旬の月曜日	市役所 正面玄関前

※3月現在の予定です。詳しくは市報・市HPでご確認ください。

御殿山2丁目在住 池田 辰雄さん

辰雄さんは、分家の9代目の農家。父(8代目)は伝統野菜のうどや漬物用に大根栽培を行っていました。戦後の食糧難の時期には、農地改革と麦やさつまいもの供出が行われたこともあり、辰雄さんも麦、さつまいも、じゃがいもを中心に栽培していました。



その後、昭和30年代は、芝畑が中心となりましたが、芝生の販売が低迷することにより、野菜専用の畑に戻し、現在では、2か所の市民農園(118区画、2,160㎡)に畑を提供しています。また、主に都内近郊の幼稚園を中心に園児のさつまいも掘りにも協力していただいています。大型バスで1回に100名ぐらいの園児が体験するとのことでした。

辰雄さんは今年米寿になります。おめでとうございます。後継者には、娘さんが家を引き継いでいただけると笑顔でおっしゃっていました。

市内には農家が営む約40箇所の直売所があり、共同直売所として、JA新鮮館があります。第6号では、農業経営の大御所とこれから期待される平成生まれの農業後継者のいる生産者を訪ねました。

境5丁目在住 後藤 幸治さん

幸治さんは農家の9代目。先代は野菜作りと茅葺き屋根の葺き替え職人でした。今でも葺き替えに使う道具が残っているそうです。戦後はうどや芝生の栽培もしていましたが、現在は祖母、父、母と3代でハウス・露地と1年を通して野菜の栽培をしています。



幸治さんは学校卒業後、全寮制のタキイ研究農場付属・園芸専門学校で、先進の農業技術や技法を実習してきました。出荷先も共同直売所・学校給食・全農・宅配便と広がって行き、西洋野菜(スティックセニョール・コールラビ等)にも挑戦し、イタリアンレストランにも納めるようになりました。

専門学校で学んで来た事を活かし、新しい品種にも挑戦し続けています。



武蔵野市果樹組合

武蔵野市果樹組合の前身は、昭和40年代の初めに境南町の3戸の農家が野菜中心の経営から果樹(梨・ぶどう等)へ転換を画一し、当時東京都農業試験場に拠点を置く、東京都果実団体協議会(主に梨生産農家)に参加し、他地区との交流や技術の研究を重ねてきました。

その後、組織の拡充を目的に2名が参加し、5名体制で正式に武蔵野市果樹組合が発足しました。平成10年頃より後継者の育成のため、果樹専業でなくても一部果樹を導入している人と将来果樹経営のビジョンを持っている人も対象として、果樹組合の再編を行い、現在28名となっています。

組合員は、他地区とは異なり、野菜を含む複合的な経営を行っておりますので、夏には果樹・野菜の視察研修を行い、冬には東京都農林総合技術センターと東京都中央農業改良普及センターの指導の下、果樹の剪定講習会を開催しています。

近年温暖化が進み、市内でもみかんの栽培ができるようになり、今年度から組合員全員で温州みかんの苗を購入し、栽培研究を行います。数年でおいしい温州みかんが取れますので、楽しみにしてください。

{市内で果樹のもぎ取り・摘み取り}



地図番号	直売所の名称	所在地	販売品目	営業期間
①	パープルファーム武蔵野	関前2-1 (52-1440)	ブルーベリー	7月中旬~8月下旬
②	Kenchan Farm	関前3-12 (52-0129)	ブルーベリー	7月中旬~9月上旬
③	高橋ベリー園	境5-10 (51-4608)	ブルーベリー	7月上旬~8月下旬
④	竹内果樹園	境南町2-19 (31-9570)	ぶどう 梨	8月中旬 8月下旬~9月上旬
⑤	船木ぶどう園	境南町2-28 (32-3570)	ぶどう狩り	8月上旬~9月上旬

編集後記

武蔵野市の農産物品評会では、出品される農産物の品質が高く、審査員の方から、順位をつけるのが難しいと伺います。東京都の農業祭で、『ナス』が農林水産大臣賞という名誉ある賞をいただけたことも、その技術力を評価されたからだと思えます。

農業委員会だより第6号も、関係各位のご協力により発刊できました。皆様に感謝申し上げます。今後も市民と農業者をつなぐ様々な話題や情報を提供してまいります。

編集委員/田中 恒男・櫻井真二郎・高橋 政孝・土屋美恵子

農業委員会だよりの感想や今後取り上げてほしい記事などありましたら、農業委員会事務局 Tel.0422-60-1833 までお寄せください。